

# 釜屋治左衛門と吾妻村の道標 ～木更津に滞在した江戸の豪商と艾文化～

千葉県立木更津高等学校 竹田千夏 寺田亜矢

## 【研究テーマの設定】

- 指差し道標について
  - 千葉県内の昔の街道筋には、指をかたどった道標が複数残されており、興味から調査することにした
  - 一般的な道標は、地域の有力者や講とよばれる組織によって建てられたものが多い
- 木更津市吾妻の道標について
  - 調査対象の指差し道標は、他の道標と異なり日本橋の艾問屋によって建てられている
  - ※艾はヨモギを原料とし、主にお灸に使用される



図1 指差し道標の例(木更津市内)



西面(北指差し) 吾妻神社



南面(東指差し) 上部:江戸道 下部:東都小網三艾問屋 釜屋治左衛門建之



東面 安政五戊午年春三月 上総国吾妻村

図2 吾妻に残る道標と記載情報

## 【研究の問い】

- なぜ日本橋の艾の商人が木更津に道標を建てたか
- 日本橋と木更津にどのようなつながりがあったか

## 【仮説】

- 道標を建てたのは艾を木更津で販売するための宣伝ではないか
- 房総に艾の原料であるヨモギを採取しに来ていたのではないか

## 【木更津と江戸の関係】 文献調査結果①



図3 木更津船の模型 (木更津市郷土博物館所蔵)

←道標関係地図

- 江戸時代、木更津船とよばれる、幕府に特権を与えられた船が江戸湾に米や木材などの物資を運んでいた
- 房総往還とよばれる街道沿いにある木更津は宿場町として栄えた

## 【釜屋もぐさの由来について】 聞き取り調査結果①

- 現在まで続く釜屋もぐさの当主から聞き取りを行った
- 近江廻船問屋出身の釜屋治左衛門は、日本橋にて、鍋や釜の問屋として営業を開始
- 3代目の頃から、もぐさの専門問屋として営業を行なう
- 江戸の頃は滋賀の伊吹山のヨモギを大坂で加工し、江戸に運搬して販売していた



図4 現代の釜屋もぐさ



地図 艾の流通経路



図5 「江戸三大看板」の一つとして親しまれた釜屋の看板

## 【道標の由来について】 聞き取り調査結果②

- 道標を建てたのは6代目釜屋治左衛門 (1790~1859) ※道標の建立は1858年
- 江戸末期の釜屋治左衛門は相当な豪商であった江戸時代にお灸は民間療法として人々に浸透艾を旅人がお土産として求めていた
- 道標の由来は、幕末の混乱に由来しているペリー来航後、釜屋は「御用金」と称して幕府方を自称する勢力から金銭を要求されることが多かった
- そのため街道を修繕するという建前で木更津へ疎開し、金銭の要求から逃れようとした



図6 吾妻の道標の古い写真(大正時代頃) 釜屋もぐさ所蔵

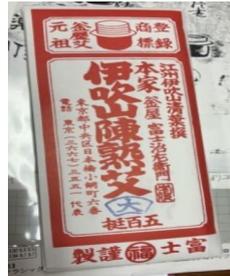


図7 江戸時代に販売されたものの再現



図8 釜屋もぐさを贈る偽物の商品(袖ヶ浦市郷土博物館所蔵)

※江戸時代後期には、釜屋の艾は偽物が出回るほど江戸の名物として知られていた

## 【江戸時代の艾文化】 文献調査結果②



図9 お灸を行う庶民 越後屋治兵衛他『廣益秘事大全』 [1853]挿絵より (https://dl.ndl.go.jp/pid/2605910)

↑江戸時代の百科事典『廣益秘事大全』は全5巻のうち1巻が灸治にあてられている

### 艾売り

近江吹山を艾の名産とす。同国柏原駅に艾店多し。特に亀屋左京と云ふ店を古戸とす。これを売る者、皆旅人に扮してかの売りに矯る。詞に、「江州伊吹山のふもと柏原本家亀屋左京葉艾はよう」けだし京坂は袋艾のみを用ふ。灸す時、大小意に随ひ捻りてこれを用ふ。江戸は専ら切り艾を用ふ。小網町に釜屋と云ふ艾店四、五戸あり、名物とす。

因みに云ふ、京坂はもぐさと云ひ、江戸はきうと云ふ。しかし切り艾は、きりもぐさと云ふ。喜田川守貞『守貞謄稿』(『近世風俗志』) 岩波文庫 1996 pp. 285-286

↑1853年頃の記述 すでに釜屋が有名であったことがわかる

## 【考察】

- 江戸時代、木更津と日本橋には密接な関わりがあった
- 江戸時代は艾を使ってお灸をする文化が根付いていた
- 釜屋治左衛門は江戸時代、豪商として知られていた

豪商と知られた6代目釜屋治左衛門は、ペリー来航後、御用金と称して様々な勢力から金銭を要求されていた。そのため江戸と関わりの深かった木更津に道の修繕を名目として疎開していた

## 【今後の課題】

- 釜屋治左衛門の木更津疎開の裏付けについて
  - 釜屋治左衛門が道の修繕を行なったことを内房地域の寺社などにあたり資料から明らかにする
- 6代目釜屋治左衛門の時代背景について
  - ペリー来航後の幕末の混乱と6代目釜屋治左衛門を文献調査によって結びつける

## 【主な参考文献】

- ・東京市日本橋区史『日本橋区史』飯塚書房 大正5年
- ・木更津市史編集委員会『図説 木更津のあゆみ』平成24年
- ・織田隆三『もぐさのはなし』森ノ宮医療学園出版部 2001
- ・荒川法勝『新風土記 房総市蹟紀』昭和図書 1981

※図に関して、特別記載のないものはすべて発表者撮影のものです

### 【謝辞】

この調査にあたり、(株)釜屋もぐさの富士武史様、木更津市吾妻地区の鈴木利典様、内山実様には貴重なお話を聞かせていただきました。ここに感謝申し上げます。